



鷗外生前に発行された著作の数々

目次

巻頭コラム『「花子」と岐阜のゆかりびと』林 正子(岐阜大学名誉教授・特任教授)／開催中の展覧会 特別展「写真の中の鷗外 人生を刻む顔」／ショップ便り／カフェ便り／展示のお知らせ 特別展「読み継がれる鷗外」／これからの催しもの／展示報告／活動報告／主な寄贈図書一覧／2022年度前期開館カレンダー／編集後記

『花子』と岐阜のゆかりびと

林 正子 (岐阜大学名誉教授・特任教授)

『花子』(三田文学)第一巻第三号 一九〇七年七月は、四〇〇字詰め原稿用紙に換算すると一七枚ほどの短編小説である。明治末期のヨーロッパで活躍していた日本の女優・花子が、通訳・久保田医学士とともに、彫刻家オーギュスト・ロダンのアトリエを訪ねた折のできごとが活写されている。小品ではあるが、生命主義の渦巻く時代潮流のなか、生命そのものの美を体現した花子、その美を発見したロダン、そして、生命の美を謳うロダンの芸術観を短編小説として創作した鷗外、三位一体の芸術作品であると言える。

作品に記されていない花子の本名は、太田ひさ。一八六八年四月一日、愛知県中島郡祖父江村(現在の一宮市西部)の旧家に三男五女の長女として生まれ、波乱万丈の人生を送った女性である。一九〇一年、コペンハーゲン博覧会の踊子として渡欧し、仕事を終えた後も帰国せず、一九〇四年、デュッセルドルフ博覧会での公演を皮切りに、腹切り物の「武士道」でドイツ巡業を果たす。続いて、ロンドンで独立興行を旗揚げし、英国各地を巡業。一九〇五年、ロンドンのサヴォイ劇場に出演し、座頭となって北欧から南欧まで巡業。一九〇六年、マルセイユでの興行の折にロダンと邂逅している。一九〇七年から翌年にかけてのアメリカ巡業こそ不評だったものの、オーストリア・ドイツ・東欧での興行は大成功し、第一次世界大戦の折には、ロダン夫妻とともにロンドンへ避難している。

ロダンが花子をモデルにした作品は約六〇点あり、花子はそのうち二点を一九二一年の帰国時に持ち帰っている。帰国後は、実妹の経営していた岐阜市西園町の芸者置屋「新駒屋」で生活し、一九四五年四月二日に亡くなった。享年七七歳。花子の墓は、岐阜市鶯谷町の浄土寺にある。

花子の妹の長男であるとともに、花子の養女の長女の夫である澤田助太郎氏(岐阜女子大学名誉教授)の著書『ロダンと花子』(中日出版社 一九九六年一〇月)は、親族ならではの視点で花子の人生行路を詳述し、西洋での花子評価に関する数多くの資料を掘り出している。また、「日本人でただ一人ロダンのモデルとなった花子が、晩年の二四年間を岐阜市で過ごしたことにちなみ、花子にまつわる幅広い研究、紹介、花子像の誘致を行うことを目的」(会則)とする、市民グループ「ぎふ・ロダン&花子」の会(一九九五年一〇月設立)も活動を続けている。

本年一月二二日(土)と二三日(日)には、岐阜県出身の音楽家と合唱団員がキャストを務める、清流の国ぎふ創作オペラ『花子』(台本・作曲・柴田恭男)が上演された。敬愛するロダンの話を聞くために来岐した高村光太郎に向かって、花子がヨーロッパでの舞台やロダンの出会いを語る内容となっている。このように岐阜では花子の顕彰が継続して行われていることに加えて、『花子』に登場する久保田医学士のモデルとされているのが、岐阜県出身の医学者・大久保栄である。



留学中の大久保栄 1906~1910年頃

大久保栄は一八七九年、岐阜県掛妻郡の村に生まれ、大野町の医家・大久保栄の養子となった。一九〇一年、第一高等学校大学予科第三部医科を卒業し、東京帝国大学医科大学に学ぶ。医科大学生の大久保栄を鷗外に推挙したのは上田敏であり、鷗外と同様、医学の道を歩んだ栄が、文学においても卓抜なセンスを発揮していたことがうかがえる。

一九〇四年三月、鷗外が第二軍軍医部長として日露戦争に出征した翌日、栄は鷗外の留守宅「観潮楼」に転居し、独協中学に通っていた鷗外の長男・於菟の指導・監督を務めている。鷗外の母・峰子、末弟・潤三郎、長男・於菟、妹・小金井喜美子、喜美子と小金井良精の長男・良一らと家族同様の交わりをもち、良一の妹・田鶴子とは結婚の話も出ていた。一九〇六年七月、東京帝国大学卒業式で首席の卒業証書と恩賜の銀時計を授与され、ドイツとフランスに四年間の国費留学を命ぜられる。シュトラスブル

ク、ミュンヘン、パリに滞在し、衛生医療研究に従事。パリ滞在中にはイギリスにおける癌腫研究所の調査にも携わっている。病理学者として洋々たる前途を嘱望されていた栄は、帰国を控えた一九一〇年六月一日、パリ・バスツール研究所にて腸チフスのため急逝。鷗外はこの有為の青年の夭逝を深く悼み、彼の人生と才能の証を残し伝えるべく、遺稿刊行など思いつく限りの対応をしている。

二〇一八年、岐阜県掛妻郡大野町の大久保家の子孫宅で、日露戦争従軍中の鷗外から栄に宛てた二枚の葉書や、鷗外との繋がりを示す書簡など、合わせて五〇〇点に上る遺品が確認された。一方、文京区立森鷗外記念館所蔵 森鷗外宛書簡集3(うらお編) (二〇二二年一月)には、戦地の鷗外に宛てての栄の葉書三葉が掲載されている。森家一族によって愛された才人、大久保栄の親族宅において、鷗外からの二枚の葉書が新たに発見されたことに、深い感慨を覚える。鷗外が其感と愛惜の情を注いでやまなかった若き有為の人、大久保栄との絆が、その心情のこもった言葉の往還の軌跡に確かにかたちで浮かび上がってくるからである。

林 正子

はやし・まさこ
1955年岡山県倉敷市生まれ。博士(文学)。専門分野は日本近代文学・日独比較文学。著書として『博文館「太閤」と近代日本文明論——ドイツ思想・文化の受容と展開』(勉誠出版)、『異郷における森鷗外、その自己像獲得への試み』(近代文藝社)など。森鷗外記念会常任理事。

開催中の展覧会

特別展

「写真の中の鷗外 人生を刻む顔」

現在開催中の特別展「写真の中の鷗外 人生を刻む顔」では、約90点の資料をとおして鷗外の陸軍軍医、作家としての姿、美術の分野での活動を紹介しています。

「団子坂の家 観潮楼」の章では、観潮楼で撮影された写真を邸内の撮影場所に配置した企画パネルや、AIを使用し彩色した7枚のカラー写真を展示し、鷗外や家族の暮らしをより身近に感じて頂けるようにしました。森家には家族のみならず、台所や家の細々としたことを手伝う使用人や住み込みで学ぶ書生がいました。今回は鷗外が所蔵していた書生(住み込んで家の手伝いをしながら勉学する学生)の写真も合わせて展示しました。父・静男を手伝っていた山本一郎、第一高等学校生の小出鈿、日露戦争中、鷗外不在の観潮楼に住み込んだ大久保栄。栄は後に留学先で若くして亡くなりますが、山本一郎、小出鈿のちに長野県、愛知県で開業医となり活躍します。「為事 鷗外のために」の章では、あまり展示の機会がなかった「第一師団動員下合記念写真」「陸軍海軍軍医連合懇親会」などの集合写真を交え、25点の資料から鷗外の陸軍軍医としての姿を紹介しています。鷗外は写真が嫌いだったと言われ、家族や友人との私的な写真はあまり残っていませんが、陸軍軍医として35年間勤める中、写真を撮られる機会が多くあったのでしよう。陸軍の規律の中にある鷗外の顔は、家庭、文学、美術にゆかりの人々と共にいる写真よりも厳しく、緊張感のある面持ちです。その他、様々な写真を通して、鷗外の顔が人生を刻み変わっていく様子を感じていただければ幸いです。

会期 ● 2022年1月9日(日) — 4月17日(日)

〔会期中の休館日〕 3月22日(火)

会場 ● 文京区立森鷗外記念館 展示室1、2

開館時間 ● 10時~18時(最終入館は閉館30分前)

観覧料 ● 一般500円(20名以上の団体・400円)

※中学生以下無料、障害者手帳提示の方を介護者1名まで無料
※文京ふるさと歴史館入館券、パンフレット(押印)、友の会会員証提示で割引
※その他各種割引がございます。詳細は記念館HPをご覧ください。
●本展覧会の最新情報は記念館HPでご確認ください。



「陸軍軍医」のコーナー



鷗外所蔵の書生たちの写真



「団子坂の家 観潮楼」展示風景



ショッピング便り

特別展「写真の中の鷗外 人生を刻む顔」の展覧会図録をミュージアムショップで好評発売中です。鷗外の少年時代から晩年までの写真や居室・観潮楼を写した写真、またAI技術を使用して着色したカラー写真なども掲載した「鷗外写真集」です。井椋直美氏(古写真研究者、日本カメラ博物館研究員、宗像和重氏(早稲田大学教授、森鷗外記念会常任理事)に論考をお寄せいただき、巻末には資料集として本展の調査で判明した鷗外が写る写真を一挙掲載しました。本展覧会図録と昨年刊行の展覧会図録「観潮楼の逸品——鷗外に愛されたものたち」は、当館の前身・文京区立鷗外記念本郷図書館が鷗外生誕140年を記念して刊行した所蔵品図録「写真でたどる森鷗外の生涯」(2002年)と「鷗外愛用の品々」(2004年)をリニューアルした図録です。新たに判明した事実や新収蔵資料を加えて、鷗外旧蔵品や写真を網羅した二冊をセットでお買い求めいただき、鷗外を身近に感じてください。

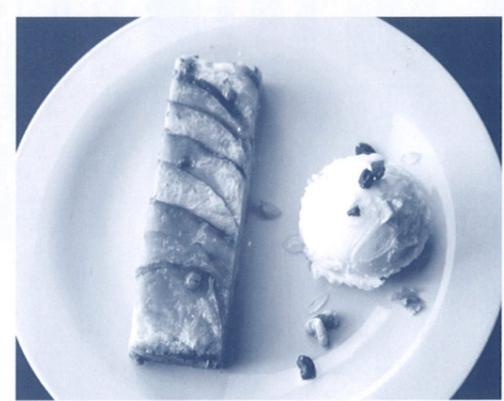


展覧会図録「逸品——観潮楼の逸品——鷗外に愛されたものたち」 A4判60頁 880円(税込)
展覧会図録「写真の中の鷗外 人生を刻む顔」 A4判88頁 1,200円(税込)



カフェ便り

毎年1月19日の鷗外誕生日には当日限定の特別メニューを提供しています。今年2022年は、鷗外生誕160年・没後100年を迎えることを記念して、1月19日(鷗外が生まれた当時の暦上の誕生日)から2月17日(新暦の誕生日)まで期間を拡大して特別メニューを販売しました。



特別メニューは、文京区根津にある焼き菓子屋を扱う菓子店「Yuzu to Tsuki(ゆずと月)の「林檎とゆずのスティックタルト」をメインに、パニライスを添えたデザートプレートをご用意しました。パニライスはドライフルーツとナッツに加え、鷗外の生誕地・鳥根津津和野町でとれたはちみつをアクセントに使用しました。津和野町でとれるはちみつは、ミツバチが季節ごとに様々な花から集めた百花蜜で、控えめな甘さの中にほのかな苦みを感じる独特な風味が特徴です。パニライスの相性もよく、華やかな味わいをお楽しみいただけます。

展示のお知らせ

特別展「読み継がれる鷗外」

2022年は、森鷗外の生誕160年・没後100年です。鷗外は島根県津和野町で生まれ、幼いころに漢学を、大学では医学を学び、陸軍軍医として衛生学の修学にドイツに留学し、日清・日露戦争では戦地に赴き、のちに陸軍医監・陸軍省医務局長に就任。医学のみならず西欧文化を日本に広め、近代日本を代表する知識人として活躍しました。

鷗外の著述は、創作や評論、翻訳などあわせて1、300以上に達します。明治・大正では文学者たちに師と仰がれ、昭和・平成を通じては文芸に加えて多分野にわたる業績についても見直されるなど、時代状況に従って、鷗外はさまざまな関心をもって読み継がれてきました。そのたびに、作品や人物像について新しい面が表れてくるのが、鷗外の魅力であり強さです。

本展では、鷗外を敬愛する小説家・平野啓一郎が8人の作家や研究者を選出(青山七恵、コリーヌアトラン、宇佐美りん、ロバートキャンベル、永井愛、中島隆博、平出隆、村田喜代子、鷗外を読み継ぎます。『雁』『山椒大夫』『キタ・セクスアリス』『鶴』『大塩平八郎』『鷗外日記』、小倉時代、大逆事件などを関連資料とあわせて展示します。また、鷗外を語った作家や、現代まで読み継がれてきた鷗外訳『即興詩人』の変遷も紹介します。

鷗外はこれからも時代の視点で読み継がれていくことでしょう。没後100年の現在でも古びない、読むべき魅力をお楽しみください。



平野啓一郎氏 ©hiromasa

アンデルセン作・鷗外訳『即興詩人』上下 春陽堂 1902年9月発売当初から多くの人々に愛読され、時代を越えて読み継がれ、新たな発想の源泉にもなっている鷗外の代表的な翻訳作品。

会期●2022年4月23日(土)―7月31日(日)

【会期中の休館日】

4月26日(火)、5月23日(月)・24日(火)、6月27日(月)・28日(火)、7月26日(火)

会場●文京区立森鷗外記念館 展示室1、2

開館時間●10時～18時(最終入館は17時30分)

観覧料●一般600円(20名以上の団体・480円)

※中学生以下無料、障害者手帳ご提示の方と介護者1名まで無料

※文京ふるさと歴史館入館券、パンフレット押印、友の会会員証ご提示で2割引き

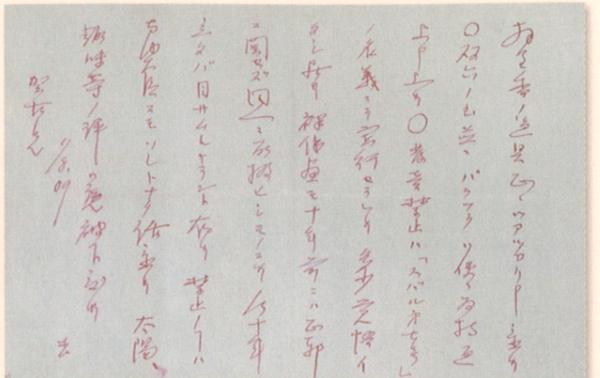
※その他各種割引がございます。詳細は記念館HPをご覧ください。

※本展覧会の最新情報は記念館HP等でご確認ください。

企画協力：平野啓一郎氏(小説家)

監修：山崎一頼氏(鎌倉女子大学名誉教授、森鷗外記念館顧問)

協力：早立神奈川近代文学館、世田谷文学館、たばこ塩の博物館、多摩美術大学図書館、東京大学総合図書館、日本近代文学館ほか



- A 小説『雁』1915年5月 初山書店
雑誌「スバル」で、1911年9月から1913年5月まで連載、単行本発行をもって完結。昭和から平成にかけて映画・ドラマ・舞台化され、さまざまな表現で親しまれる作品。
- B 鷗外筆賀古鶴所宛書簡 1909年8月1日付
小説『キタ・セクスアリス』掲載の「スバル」7号(1909年7月)が発売禁止になったことを伝える。『鷗外全集』(鷗外全集刊行会、1927年)に収録され、現在まで読み継がれる。
- C 有元利夫『キタ・セクスアリス』(版画「たばこのある風景」より)
たばこ塩の博物館蔵 ©YOKO ARIMOTO
現代を代表する画家たちが、近現代の日本文学作品の中からのたばこの場面を題材に制作した版画シリーズ(1979～1991年)の1点。主人公の二十歳の経験を想起させる。
- D 斎藤茂吉『鷗外先生と和歌』自筆原稿
西文学の翻訳や小説・詩歌・戯曲の創作や評論など、多方面に活躍した鷗外は、多くの文学者に影響を与えた。
- E 安野光雅『繪本 即興詩人』講談社 2002年、『口語訳 即興詩人』山川出版社 2010年
鷗外訳『即興詩人』を愛した画家・安野が、主人公の足跡をたどった紀行画文集と、文語体訳を口語訳し現代につないだ一冊。

関連事業のお知らせ

展覧会期間中に2階講座室にて関連講演会を予定しております。定員は各30名(事前申込制)、参加費と本展の観覧券(半券可)が必要です。詳しい申込方法は8頁をご覧ください。

「森鷗外と陽明学」

近代日本では日本的な陽明学が形成されていきました。森鷗外とその作品が陽明学とどのような関係にあるかをお話いたします。

講師 中島隆博氏(哲学者、東京大学教授)

日時 5月28日(土) 14時～15時30分

申込締切 5月13日(金) 必着

「鷗外と大逆事件」

「大逆事件」をめぐって、奇妙な立場に陥った鷗外。『沈黙の塔』『食堂』などから、その心中を探ります。

講師 永井愛氏(劇作家、演出家)

日時 6月19日(日) 14時～15時30分

申込締切 6月3日(金) 必着

ギャラリートーク

2階講座室にて当館学芸員が展示解説を行います。申込不要、当日の展示観覧券が必要です。直接講座室へお越しください。

5月4日(祝)、6月15日、7月13日

いずれも水曜日14時～(30分程度・開場13時45分)

定員 15名

※右記に加え、会期中展示解説をYouTubeチャンネルにて配信予定。

鷗外忌関連事業

○7月9日(土)は鷗外忌

◆鷗外没後100年を記念して開館時間を延長します。(9時～20時)

◆当日は展覧会を観覧された方に没後100年記念シールをプレゼントします。

◆文京区にお住まいの方、学校や勤務先が文京区の方は、終日無料で展示をご覧ください。(保険証、免許証、社員証、学生証など、住所が記載されているものをご提示ください。)

○鷗外忌記念展示

鷗外「遺言状」の原資料を展示します。
展示期間：7月1日(金)～31日(日)

これからの催しもの

当館では、次の100年へ「鷗外」を伝えていくため、鷗外とのさまざまな「出会い」をご用意しました。当館の展覧会や記念イベントをとおして、新たな鷗外の魅力を感じて頂けたら幸いです。現在予定している記念事業のラインナップをご紹介します。

※事業名、日程、講師は変更になる場合があります。

※内容、定員、料金、申込方法等の詳細は、決まり次第、チラシや記念館HPなどでお知らせします。

記念展覧会

○特別展「写真の中の鷗外 人生を刻む顔」
1月9日(日)～4月17日(日) ※3頁参照

○特別展「読み継がれる鷗外」
4月23日(土)～7月31日(日) ※上記参照

○コレクション展「鷗外の住まい」
8月5日(金)～10月16日(日)

10歳で上京した鷗外の東京における住まいをたどると共に、鷗外が30年間暮らした観潮樓の現在までの変遷を紹介します。

○特別展「鷗外遺産」
10月22日(土)～2023年1月29日(日)

自筆資料など、鷗外の一級品が観潮樓に集合。鷗外遺産をとおして、鷗外の人生の諸相を紹介します。

記念イベント

○森鷗外生誕160年 没後100年記念番組
「鷗外百年の森へ――漢詩でたどる生涯」
3月28日(月)～4月3日(日) 文京区CATVで放送予定

解説：佐藤保氏(松学舎大学・お茶の水女子大学名誉教授)
朗読：加賀美幸子氏(アナウンサー)

○森鷗外没後100年キャンペーン
「森鷗外関連書籍セレクトフェア」

「鷗外を探しに書店をぶらりスタンプラリー」
6月1日(水)～7月31日(日)

キャンペーン参加の書店2店(対象書籍を店舗ごとに合計1,000円以上購入)と当館(展覧会観覧)を巡るスタンプラリーを開催します。3つのスタンプを集めた方には、当館オリジナルミニバックをプレゼントします(なくなり次第終了)。

○鷗外忌記念講演会
7月16日(土) 講師：森まゆみ氏(作家、編集者)

○鷗外講座・没後100年記念版「鷗外の生涯を1日で学ぶ」
8月27日(土) 講師：倉本幸弘氏(森鷗外記念館常任理事、森鷗外)

○鷗外講座・没後100年記念版「鷗外の詩歌を語る」
9月10日(土)

講師：大塚美保氏(聖心女子大学教授、森鷗外記念館常任理事)
今野寿美氏(歌人、宮中歌会始選者)
坂井修一氏(歌人、東京大学教授)

○開館記念日記念講演会
11月12日(土) 講師：伊藤比呂美氏(詩人)

【五十首題】

関連イベント

※申込先が異なりますのでご注意ください。

○文の京コミュニティコンサート
森鷗外記念館ハープ・ソロコンサート
7月9日(土) 18時30分開演

演奏：福島青衣子氏
会場：文京区立森鷗外記念館 2階講座室

料金：無料(事前申込制)
申込：問合：文京アカデミー

○森鷗外没後100年記念学術講演会
7月3日(日) 14時～16時30分

ゆかりの自治体(文京区・津和野町・北九州市)首長挨拶(予定)
基調講演：平野啓一郎氏(小説家)
パネルディスカッション：平野啓一郎氏、青山七恵氏(作家)、平出隆氏(詩人、多摩美術大学名誉教授)他予定
会場：東京大学伊藤記念ホール

※オンライン及び会場にて開催(事前申込制・抽選)
※詳細は5月下旬に文京区HP等でお知らせします。

展示報告

2012年に開館した文京区立森鷗外記念館は、2022年に開館10周年を迎えます。今年度最後の刊行となる本号では、記念館の2017年度から2021年度までの活動(展示・記念イベント)を一挙に振り返ります。

※2012〜2016年度は本誌18号に掲載しました。

○ 関連事業
○ 講師・出演者「敬称略」

2017年度

- a 特別展「鷗外の庭に咲く草花」
b コレクション展
c 特別展「明治文壇観測」
d コレクション展

2018年度

- e 特別展「鷗外と旅する日本」
f コレクション展「東京・文学・ひとめぐり」
g 特別展「鷗外の『うた日記』」
h コレクション展

2019年度

- i 特別展「一葉、晶子、らいてう」
j コレクション展
k 特別展「荷風生誕140年・没後60年記念」

2020年度

- l コレクション展
m 特別展「森家の歳時記」
n コレクション展

2021年度

- o 特別展「観潮楼の逸品」
p コレクション展

2022年度

- q 写真の中の鷗外人生を刻む顔

2017年度

- 記念日イベント
開館5周年記念イベント
講演会「森鷗外 異文化との出会い」

2018年度

- シンポジウム「深読み? 森鷗外」
鷗外とシクマリオン・コンプレックス
鷗外忌記念講演会「鷗外LOVE!」

2019年度

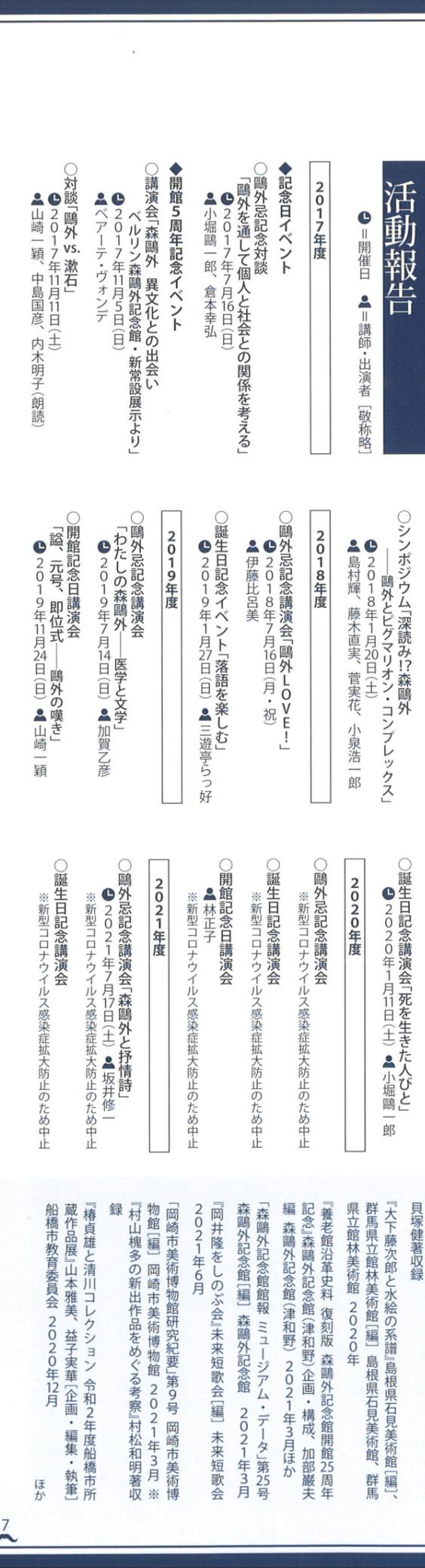
- 誕生日記念イベント「落語を楽しむ」
鷗外忌記念講演会「わたしの森鷗外―医学と文学」

2020年度

- 誕生日記念講演会「死を生きた人ひと」
鷗外忌記念講演会「森鷗外と抒情詩」

2021年度

- 鷗外忌記念講演会「森鷗外と抒情詩」
誕生日記念講演会



主な寄贈図書一覧 (2021年1月〜12月)

左記の貴重な資料を文京区立森鷗外記念館にご寄贈いただき誠にありがとうございました。鷗外研究のための貴重な資料として、未永く保存・活用させていただきます。(受付日順)

- 【著者寄贈】
「太平餘興」第7集 協進社編 太平書屋 2020年11月
「二冊の本」第26巻第1、4、7、10号 朝日新聞社 2021年1月、4月、7月、10月
「村山槐多の新しい作品をめぐって」 村山槐多著 2021年3月

2022年度前期 文京区立森鷗外記念館 開館カレンダー

4月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

5月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

6月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

7月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

8月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

9月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

特別展「写真の中の鷗外 人生を刻む顔」
1月9日(日)～4月17日(日)

特別展「読み継がれる鷗外」
4月23日(土)～7月31日(日)

コレクション展「鷗外の住まい」(仮称)
8月5日(金)～10月16日(日)

鷗外忌記念「遺言書」オリジナル展示
7月1日(金)～7月31日(日)

● 延長開館(9時～20時) ● 休館日

開館情報は予告なく変更になる場合があります。
詳しくは当館までお問い合わせください。

事前申込制のイベントは、各申込締切日までにお申し込みください。1通につき1名様(往復はがき・Eメールどちらかお一人様1通まで)、応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。皆様のご来館お待ちしております。

②Eメールでの申込
件名に参加希望プログラム名・日時、本文に氏名(ふりがな)・電話番号・Eメールを明記の上、
bnk-event@moriogai-kinenkan.jp
まで応募ください。
※当館から受信可能なEメールアドレスをご記入ください。受信制限が設定されている場合、当館からのEメールを受け取れないことがありますので、あらかじめご確認のうえ送信ください。

①往復はがきでの申込
往信に参加希望プログラム名・日時・氏名(ふりがな)・住所・電話番号を、返信用には、住所・氏名を明記の上、
〒113-0022
東京都文京区千駄木1-23-4
文京区立森鷗外記念館イベント受付係
までご応募ください。

「鷗外イヤー」である2022年がついに幕を開けました！4～5頁で紹介した通り、当館では1年をとおして、さまざまな記念事業を開催します。内容などの詳細は決まり次第、チラシや記念館HPでお知らせしますので、どうぞご期待ください。今回は事前申込制イベントの申込方法をご案内します。5頁掲載の展覧会関連講演会は、左記の方法でお申し込みください。

編集後記



●電車をご利用の場合

- ・東京メトロ千代田線「千駄木」駅 1番出口 徒歩5分
- ・東京メトロ南北線「本駒込」駅 1番出口 徒歩10分
- ・都営三田線「白山」駅 A3番出口 徒歩15分
- ・JR線・京成線「日暮里」駅 西口 徒歩15分

●バスをご利用の場合

- ・都バス 草63番系統「千駄木一丁目」下車 徒歩1分
 - ・都バス 上58番系統「団子坂下」下車 徒歩5分
 - ・B-ぐる千駄木・駒込ルート「19特養ホーム千駄木の郷」下車 徒歩5分
- ※一般の駐車場がございませんので、公共交通機関をご利用ください

〒113-0022 東京都文京区千駄木1-23-4 TEL: 03-3824-5511
URL: <https://moriogai-kinenkan.jp>

開館時間 10:00～18:00(最終入館は17:30)

休館日 毎月第4火曜日(祝日の場合は開館、その他例外あり)、
年末年始(12月29日～1月3日)、及び展示替期間、燻蒸期間等



2022年 開館10周年
文京区立 森鷗外記念館
Mori Ogai Memorial Museum